

平成29年度第3回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の意見概要

1 日時

平成30年3月16日（金） 13:30～15:30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

事務局から「最近の消費・輸入動向等について」（資料1）を説明の後、春野菜の需要見通しについて、意見交換。その結果を踏まえて小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、3月17日開催の平成29年度第3回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。

平成30年産春野菜の需要見通し等の概要及び最近の消費状況等に関する委員からの意見の概要は以下のとおり。

○ 春野菜の今後（4～6月）の需要見通しの概要

(1) 主要6品目

① 春キャベツ

- 価格高騰による買い控え後の反動が期待できることや、カットサラダ用の寒玉系需要に加え、気温上昇とともに売場における春系の人気が高まることから、需要増加を見込む。

（注）春キャベツとは、寒玉を含め、春に出荷されるもの。

② 春だいこん

- 出荷が回復傾向にあり、価格が落ち着くと見込まれることや、サラダ需要は見込めるものの、基本的には需要期でないことから、需要は平年並みを見込む。

③ たまねぎ

- たまねぎを使用したカットサラダの販売が微増傾向にあるものの、九州産の新玉ねぎが冬場の低温により出遅れていることから、需要は平年並みを見込む。
- なお、九州産の新玉ねぎが、冬場の低温等の影響を受けて生育が停滞しているが、気温の上昇とともに生育は回復する可能性もある。

（注）たまねぎには、貯蔵後に出荷されるものと、収穫後、貯蔵せず出荷される新玉を含む。

④ 春夏にんじん

- じゃがいもや、たまねぎと連動した需要は見込まれるものの、春物が冬期の低温により生育が遅れているため、需要は平年並みを見込む。
- なお、主産地において、昨冬の長雨・低温による影響により生育が遅れているが、気温の上昇とともに回復する可能性もある。

⑤ 春はくさい

- 春タイプの商材で一時的に需要が伸びる可能性はあるものの、気温は高くなる予報であることから、需要は平年を下回ると見込む。

⑥ 春レタス

- 価格高騰による買い控え後の反動が期待できることや、気温の上昇とともにサラダ需要の伸びが期待できることから、需要増加を見込む。

(2) その他品目

① きゅうり

- 関東の主産地の生育が順調で、冬場の高値が解消されることから、需要は平年並みを見込む。

② トマト

- サラダ需要は見込めることに加え、全般的に需要は底堅く、特に完熟系トマト、高糖度系のトマト需要が伸びていることから、需要増加を見込む。

③ ねぎ

- 薬味需要は見込めるものの、5月は端境期で出荷が多くない見込みであることから、需要は平年並みを見込む。
- なお、主産地における降雪、低温等の影響により生育は遅れており、出荷は安定せず、5月以降は品薄になる可能性。

○ 最近の消費状況等

- (1) 昨年10月の長雨・台風の影響により、キャベツ、だいこん、はくさい、にんじんの価格が高水準となり長期化しておりますが、
- ・ 生鮮野菜の売場において値頃感をだすための対応（輸入野菜、国産の代替野菜、ホールから1/2カットにして販売、たまねぎの特売等）など、どのように販売方法を工夫していますか。
 - キャベツは玉・半切・1/4切の3ライン、大根も1本・半切・1/4、白菜は例年は半切・1/4切+1/8切の品揃え実施。
 - 大型野菜の異常高値の時は丸ごとの動きは悪く、1/2CT、1/4CTにシフトしてしのいだ。
 - 雪害などがあり手配に苦労したが、届けてもらってありがたいとの声が相次ぐ。1/2カットも配置。
 - 輸入代替えは行わない。
 - 出荷基準を緩和して受注にこたえる対応をした。
 - セット（外見がやや悪いものも販売）に対する苦情はない。
 - キャベツでの輸入対応を予定している。

- 価格が一定である豆苗を販売した。
 - 高騰でキャベツを買い控えていた消費者をターゲットに、惣菜コーナーで千切りキャベツ等の量り売りをした。
 - 1/2、1/4カットでの販売
キャベツは通常は1玉はLサイズを販売しているが、価格を抑えるためにMサイズを販売するなど規格も変更している。
 - ブロッコリー、ズッキーニ、いんげんなど輸入野菜を代替え販売。
- ・ 前記の販売方法の工夫に対して消費者の反応はどうか。
 - 価格帯に応じて選ぶ消費者もいるが、やはり「調理に必要な量」がある為、全員が小分けした物が必要では無い。
 - 今時の消費者は少量希望であり、1/2CT、1/4CTは買い慣れており、使う分だけ購入する。
 - 消費者には冷静な購買を呼びかけている。以前のような、注文の集中はみられない。
 - 野菜などを予約注文して購入する人が増加している。
 - 豆苗は消費者の購入量が多いため通常の3倍となった。
 - 千切りキャベツ等の量り売りは好評だった。
 - 価格高騰のなかで理解されて購入されている。
 - 特売時のまとめ買いなども見受けられる
 - ・ カット野菜及び冷凍野菜の販売状況について教えてください。
 - 特にカットレタス、千切りキャベツの供給が12~1月の動向が良く、供給に限界があつて品切れや品薄が続く。どうにか現時点で見通し立ち、今後は潤沢に供給できる。
 - これからもCT販売は人気があるので続けたい。
 - 料理セットに注文が集中している。通常の150%増。
 - 冷凍野菜も人気上昇。買いやすい価格で旬の味がたのしめるので好評。
 - 主要野菜全体の成育不良から、調達できない品目が発生する事態になっている。
 - カット野菜の販売は好調である中で、国内産の原料不足を背景として、途中から台湾産又は中国産への変更があつた。
 - カット野菜はサラダ用だけでなく、炒め物用も大きく伸長している。
 - メーカー側での加工用の原料の手配も十分に出来ない状況で原料の輸入品への代替え、一部商品は納品数量の制限も発生。
- (2) 今後、我が国は人口減少や高齢化などが進み、急激に生産・流通・消費の構造的な変化が起こり、野菜の需給・価格に影響がでてくる可能性があります。生産・流通・消費のそれぞれについて注視すべきことは具体的に何か教えてください。
- ・ 生産
 - 規格の見直し~特にきゅうり、なす、トマトの階級が多すぎる事により、農家個人選別の手間・時間の削減、各JAの個人選別の廃止、農業法人の生産者も利用できる選果場の解放。
 - 生産農家の高齢化や人手不足により、今までの様な大量生産は望めず、供給不足が起こり野菜が単価高になりえる。

- 後継者は育ってきている。後継者どうしの交流会や技術指導、農法研究が進んでいる。
- 経営を断念した農地を後継者や新規就農者が耕作しているケースが増えている。安い農機具などの提供や販売先の確保。
- 栽培面積確保につながる一貫体系の確立を進める。
- 供給不足は深刻、就農者を増やすことが大切。
重油高で施設内の加温を控えたり生産が厳しい。
- 農業生産法人の増加と大規模生産農家による供給
外食・中食への供給拡大による、市場相場への影響

・ 流通

- 自社の物流がどこまで歩み寄るか、どこで自社の商品を集荷する際に集約するか、配下するセンター以外に「自社の集荷場」となる拠点があれば、ドライバー不足に対するアクションは起こせていけると考える。
- 流通の変化によりコスト高は否めない。
- 流通は産地同士の共同物流が進んでいる。
- 共同物流の拡大・推進。
- 県域を越えた補助金交付への取組が必要。
- 配送車が確保できないので、注文額の少ない納品先は配送が遅れがちになる。
- 流通コスト増加による市場集約や価格の上昇。

・ 消費

- ネットビジネスが拡大され、通信販売やコープの需要があり、スーパーマーケットに自らの足で出向く事自体が減少していく。配送費込みの価格で供給される通販の魅力は消費者の時間も買える為、メリットが大きいものになっていくと思う。
- 消費の多様化は進み、スーパーや専門店のシェアを脅かす時代は来る。
- S D G s アワード受賞で国内農業推進、環境保全型農業、有機農業の推進は追い風。どうせ購入するなら環境や地域に配慮された安全な農産物を購入したい層が増えている。
- 産地でS D G s について学習したいとのことで講演要請があいついでいる。
- キット商品の拡大、鮮度保持できる商品及び商品化⇒ロングライフ化
- 65才～75才アクティブシニア層への対応
キーワードは「簡素化」、「経済性」、「健康」
- 都市圏は、同業他社やネット通販との競争が年々厳しくなっていることから、地方での利益率が比較的高くなっている。
- 人件費の上昇に伴い惣菜の店頭価格を上げると需要がついてこない。
- ホールではなく、カット野菜や冷凍食品への需要シフト。

(3) 今春の注目すべき野菜

- ブロッコリー、ピーマン
- カリフラワー等、サラダ食材が台頭してくる。
- アスパラ。年々人気上昇しているが出荷量はすくない。
- 豆類 絹さや、いんげん、スナップエンドウなど九州の雪害で影響が心配。需

要は上昇している。

- ブロッコリー、菜花、
- たけのこなどの季節商材も人気上昇。
- 豆苗、マッシュルーム。